

サーキット・ライダー2005年2月号

苦難を見つめる

あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずで
す。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはな
さらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいま
す。
コリントの信徒への手紙一 10:13.

今年はキリスト教暦と太陰暦の関係で苦難節、復活祭が例年になく早く来ます。つい一ヶ月前にクリ
スマスをお祝いしたばかりなのに、もう苦難節で、気持ちを備えることも儘(まま)なりません。さて皆さ
んは日ごろから思いがけずやって来る苦難、例えば病氣、怪我、事故、人間関係の躓(つまづき)きや死
にきちんと向き合い自分を備えているでしょうか?若い人は勿論、中年になっても「まだまだ」と思い、
やがては確実に来る死に向き合っていない方が殆どではないでしょうか。老年になっても死と向き合えな
い方も結構いるようです。「苦難や死とどう向き合うか」は私達に絶えず問われています。これは逃げては
いけない課題です。

昨年12月末にインドネシア沖で発生した大地震、津波は死傷者を30万人近く出し、家を失った人の
数は数百万で、前代未聞の災害になってしまいました。米国合同メソジスト教会でも100万ドル(約一
億円)の献金目標を立てて救済を呼びかけていますが、被災者の方々の為に本当に世界が力を合わせて何
かしなければなりません。このインドネシア沖地震、津波について、先日ある教会員がクリスチャン・フ
ァミリーラジオを聴いていたら、そのトークショーのホストが聴衆の「このような自然災害、天災も神の
御心ですか?」という質問に「ハイ、全ては神の御心です。あの地域に大地震、津波が起こったのは、イ
スラム教徒、異教徒、無心論者が多く暮らす地域に神の警告、裁きを示す為です。云々。」と答えたそう
です。それについて「先生はどうお考えですか?」とその方は尋ねられました。私は即答で「神様はそのよ
うなことを望んでいるとは思いません。」とお答えしました。何も罪の無い(神学的な意味ではなく、ごく
普通に何も死罰を受けるようなことはしていないという意味)多くの人の命が奪われたり、家を失い路頭
に迷うことを神が望むとは私には思えません。

このトークショーのホストは彼自身が神の座に立って他者を裁いてしまった。誰が罰せられ誰が救われ
るかは神の領域であり御心です。私たちがイスラム教徒、異教徒が多いからと言って、天災をも神の裁き
の業にすることは許されません。2001年9月11日のテロ攻撃により世界貿易センターが破壊され、
3000人以上の尊い命が奪われた事件直後、キリスト教原理主義のジェリー・フォーウエルという伝道
者は「これは物質文明に溺れた人間、神を信じない人間への裁きだ。」と発言して物議をかもしました
が、彼も神の座に座っている人だと思えます。人が神の座に座る時、「自分こそ正しい、他者は全て悪い」
という独断的な物の見方、生き方をします。そこにあるのは「自分さえ良ければ他者はどうでも良い。」「原
理主義クリスチャンさえ良ければ他の宗教を信じている人はどうでも良い。」というエゴイズムです。

神は悔悛の機会も与えず無慈悲に多くの人たちを裁いて罰してしまうことなどはされないと私は信じて
います。ではあのような悲惨な出来事、災害にどのような意味があるのでしょうか。神の御心がどこかに
あるのでしょうか?もし神の御心、思いがあるとすれば、それは私たちが「どのように被災者を応援する
か、被災国の援助をするか」ということ、私たちが人として、またクリスチャンとして「今何をすべきか」
という問いかけ、生き方にあるのだと私は思います。聖書には「互いに愛し合いなさい。」(ヨハネ15:
12)「自分を愛するように隣人を愛しなさい。」(レビ19:18)更には「敵を愛し、自分を迫害する者
のために祈りなさい。」(マタイ5:44)などという言葉があります。これらの言葉は私たちがどのよう
に生きるべきかを示唆しています。私たちが「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマ12:
15)を実践することこそが神の御心であり、悲惨な災害があった今、正に私たちの生き方が神から問わ
れています。

冒頭の御言葉にありますとおり、どのような試練でも必ず逃れる道が備えられている。どんなに苦しく
ても決して一人ではない。神が共にいて下さる。私たちがそう信じればこそ苦難にも死にも向かって行け
るのではないのでしょうか。また神が共にいて下さるように、私たちが互いに助け合い、支えあう。苦難節
は改めて自分を支えて下さる神、家族、友人、自分自身を見つめる時です。 吉松 純

*礼拝：午後4時。Jr.教会（教会学校）：午後4時時、礼拝に出席後、分級に進みます。

*祈りたい方の為に礼拝堂を午後3時30分より開放しています。どうぞご利用ください。

*聖日予定：

2月 6日：自由祈禱会、Jr.教会：ハートウオーミング・クッキング、聖餐式礼拝。

13日：自由祈禱会、Jr.教会：紙芝居、礼拝、司会：荒美俊三兄。

20日：自由祈禱会、Jr.教会：リズム遊び、ユーリズムー、礼拝、司会：荒美和子姉。

27日：自由祈禱会、Jr.教会、スピリチュアル・ダンスと礼拝。司会：荒美俊三兄。

3月 6日：自由祈禱会、Jr.教会、聖餐式礼拝。

*集会、行事予定と報告

9日（水）午後7時より、Ash Wednesday（灰の水曜日）特別礼拝。Hillsdale 合同メソジスト教会にて Westwood, Hillsdale, Park Ridge の合同礼拝(英語)。どなたも歓迎！

13日（日）午前10時より英語礼拝にてコピナント・プレーヤー（クリスチャン演劇グループ）を招聘し特別礼拝。メッセージのこもったスキットを観賞します。

17日（木）午後6時より、苦難節（Lent）特別集会。パンとスープ、聖研の夕べ：ベツレヘム・コミュニティー教会のウイニフレッド・スティアート姉の証。

18日（金）午後7時30分より、聖書研究会、日本語オフィス。旧約聖書、ネヘミヤ記。

24日（木）午後6時より、苦難節パンとスープ、聖研の夕べ。パターソンの聖フィリピ伝道牧師、スタッフオード・ミラー博士の証。路傍（ろぼう）伝道と炊き出し、貧しい者の救霊、救済。

25日（金）午前10時30分より、牧師館にて聖書の学び。新約聖書、ヤコブ書第三章。

27日（日）午前10時と午後4時、シャクアナ・デービス姉と松尾孝恵姉によるスピリチュアル・ダンスの礼拝。

*御協力お願い致します。献金の宛名は UMC-JA でお願ひします。

*インドネシア沖地震と津波の被害国への救援献金を始めました。現在、インドの教会及び被害者への直接送金及び被害の最も大きかったインドネシアへの送金を計画しています。ご協力お願い致します。

*新潟中越地震の被災者の方々への救援献金をお願い致します。現地の教会を通して被災者の方へ送ります。

*ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

*使用済み切手を集めています。ご協力下さい。消印のついた切手の周り1センチくらいの余白を残して切とって下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（JOCs）に送ります。JOCsは切手を換金し得られた収益金で海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

*HOPE（The Heart of Pediatric Electrophysiology）というボランティア団体にもご協力下さい。

Electrophysiology という特有の心臓病を患う子供を救う為、寄付金を募り患者や家族に送ったり、病院などの情報交換をしています。募金を下さる方はあて先をHOPEとしてください。

*一昨年よりケニアの恵まれない子供達やエイズ患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。

連絡先：英語オフィス（201）391-5499 日本語及びファックス（201）505-0347

ホームページ：<http://umc-japan.org> 吉松牧師宅（201）391-2208 pastor@umc-japan.org

教会学校担当：松尾孝恵姉（201）802-1769 takae17@AOL.com